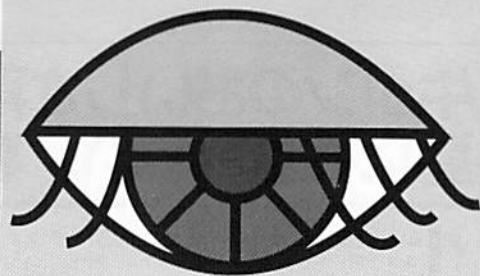


# FAME Report



京都ノゾキ見トピックス

## インターネットを体験しよう。

### なかなか触れる機会がなかったデジタル時代の先駆けコンピュータ「インターネット」を、自由に体験できる日本初のカフェが京都に登場。



近年、頻繁に耳にする言葉に「インターネット」がある。書店には入門書や専門誌を並べたインターネットのコーナーも置かれるほど、世の関心は高まるばかりだ。しかしいくらハイテク時代とはいえ、「コンピュータ」や「ネットワーク」など、その手のカタカナは聞いただけでアレルギーを起してしまうという機械嫌いはまだまだ多く、そのうえパソコンおたくのイメージも今だに残っているというのが、わが日本の現状である。だがインターネットを知らずして、これからのマルチメディア時代を語ることは不可能だ。何故なら、我々が日常利用している電話、TV、新聞、雑誌、郵便、その他がすべて、インターネットによって代わる日が近い将来必ず来ると予測されているからである。そもそもインターネットとは、70年代後半にアメリカ国防省のリサーチプロジェクトを目的に作られたコンピュータネットワークのことである。その後、州政府が一般普及に踏み切り、現在の利用者は世界で約3万人、年に84%の伸びで増加している。では実際にインターネットでどういことができるのだろうか。

例えば、家にいながらにして世界の最新ニュースがわかる（関西大震災、東京地下鉄サリン事件の第一報はどこよりも早くインターネットで世界中に流された）、ホワイトハウスから送られるクリントン大統領の演説文やNASAの公開情報などを入力することができる。日常レベルでは、国内・国外の通販が利用できる。電子メールで、どここの国であろうと一瞬にして手紙を送ることができる。旅行の情報を風景写真入りで見ることができ、個人メッセージを開放し、それを不特定多数の人間が受け取ることができる。つまり、インターネットがあれば、自分の部屋から世界中とコンタクトがとれるというわけである。既に一般家庭にインターネットが普及しているアメリカでは、これよりさらにワンランク上のデジタル化が

始まっている。ビジネス面では、個人商売の増加及び企業の地方分散化、教育面では、学生が大学へ通うことなくネットワークを通じて好きな講義を受けられるようになるなど、大きな改革が起きつつある。最近では3才児のためのソフトが開発され、幼稚園や保育園からコンピュータに慣れさせるシステムも動き出した。小学生にはコンピュータ特訓用のサマーカーンプまであるという。では、それに比べて日本ではどうなのかというところが肝心なのだが、個人・企業の利用が増えつつあるとはいえ、専用回線や価格の問題もあり、一般普及にはまだまだ程遠いものがある。しかしこの度、インターネットが体験できるという日本発のインターネットカフェ「ネットサーフ」が京都に誕生した。誰でも気軽にインターネットに触れる機会を持つようになるとオープンされたこの場所は、好きなときに来て、世界の情報を自由に取り出すことができる。エレベーターを降りると、コンピュータが並び室内は非常に明るい雰囲気。音楽が流れ、壁にはインターネット関連の雑誌がずらりと置かれている。利用者は意外にも女性が多く、子供から学生、社会人など、訪れる年齢はさまざま。コーヒー・紅茶飲み放題というサービスぶりも効いてか、1日ねばるひとも多いらしい。料金は一時間800円。上限でも2000円である。取り出した情報はプリントアウトやフロッピーで持ち帰ることも可能。もちろん、初心者にはスタッフが丁寧に教えてくれるから、コンピュータが苦手というひとにも尻込みすることはない。いったん慣れれば、使い方が無限に広がる楽しさもある。来たるべき時代に備え、インターネットに触れることは非常に有意義な体験となるだろう。

#### ■ネットサーフ

京都市下京区四条通高倉西入

カワバタビル8F

11:00 AM ~ 7:00 PM

水休

★075・221・2707